



警告のニューズレター「角笛」

発行日:2014年12月発行(第56号)

発行:警告の角笛出版

価格:100円(送料込みで200円)

角笛HP:<http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

[目次]

◎巻頭メッセージ:「さばきのためこの世に来られた主」エレミヤ

◎証「シヌアルの美しい外套」を通して教えていただいたこと E3

◎お知らせコーナー:「新刊本の紹介」「日曜礼拝のご案内」「第38回黙示録セミナー」

[巻頭メッセージ]

「さばきのためこの世に来られた主」

by エレミヤ

[聖書箇所]ヨハネの福音書 9:39

9:39 そこで、イエスは言われた。「わたしはさばきのためにこの世に来ました。それは、目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためです。」

<イエスを見間違えたパリサイ人たち>

本日は「さばきのためこの世に来られた主」という題でメッセージをしたいと思います。イエス・キリストの最初の来臨は、誰にでも分かりやすい形で来た、というより、それは分かりにくい形での来臨であったこと、それにより、多くの形だけの偽善的な人々がさばかれてしまった、という事柄を見ていきたいと思うのです。

テキストは冒頭の聖書箇所です。これは生まれつきの盲人である青年が、キリストによって目を開けてもらう奇跡の箇所です。ここで主は、ご自分がさばきのためにこの世に来られたこと、そしてそのさばきとは、「目の見えない者が見え

るようになり、見える者が盲目となるため」であることを語られました。「目の見えない者が見えるようになり」、このことはこの箇所では、具体的には生まれつきの盲人であった青年が、目が見えるようになったことを指します。そして単に彼の肉体の目が見えるようになっただけでなく、この青年は他の人が見ることのできなかつた方、真の救い主であるキリストを見るようになったのです。このように書かれています。

[聖書箇所]ヨハネの福音書9:28-34

9:28 彼らは彼をののしって言った。「おまえもあの者の弟子だ。しかし私たちはモーセの弟子だ。」

9:29 私たちは、神がモーセにお話しになったことは知っている。しかし、あの者については、どこから来たのか知らないのだ。」

9:30 彼は答えて言った。「これは、驚きました。あなたがたは、あの方がどこから来られたのか、ご存じないと言う。しかし、あの方は私の目をおあけになったのです。」

9:31 神は、罪人の言うことはお聞きになりません。しかし、だれでも神を敬い、そのみこころを行なうなら、神はその人の言うことを聞いてくださると、私たちは知っています。

9:32 盲目に生まれついた者の目をあけた者があるなどとは、昔から聞いたこともありません。」

「さばきのためこの世に来られた主」 エレミヤ

9:33 もしあの方が神から出ておられるのでなかったら、何もできないはずですよ。」

9:34 彼らは答えて言った。「おまえは全く罪の中に生まれていながら、私たちを教えるのか。」そして、彼を外に追い出した。

生まれつきの盲人であった彼は、パリサイ人が見ることのできなかつた方を見、このイエスこそ真の神からの人であることを見ることができたのです。彼は肉体の目だけでなく、霊の目も開けられたのです。

「見える者が盲目となるため」とも主は言われました。このこととは反対に、他の人より良く見え、聖書の真理を分かっているはずのパリサイ人たちはみごとにイエスを見ることに失敗し、イエスを罪人であると思ひ込みました。彼らはイエスのことをこう語っています。

〔聖書箇所〕ヨハネの福音書9:24

9:24 そこで彼らは、盲目であった人をもう一度呼び出して言った。「神に栄光を帰しなさい。私たちはあの人を罪人であることを知っているのだ。」

彼らは間違えなく、イエスは罪人であると確信を持って思い込んでいたのです。さて、なぜ彼ら2者の間に同じイエスに関してこのような違いが生まれてしまったのでしょうか？一方の生まれつきの盲人はイエスを正しく見、他方のパリサイ人たちは見間違えました。なぜ、同じイエスに関してこのような違いが出たのでしょうか？その理由に関して、私は以下のみことばが説明するように思います。

＜こころのきよい者は神を見る＞

〔聖書箇所〕マタイの福音書5:8

5:8 心のきよい者は幸いです。その人は神を見るからです。

〔聖書箇所〕ヘブル人への手紙12:14

12:14 すべての人との平和を追い求め、また、聖められることを追い求めなさい。聖くなければ、だれも主を見ることはできません。

これらのことばは、心のきよい者が神を見ることを語っています。ですから生まれつきの盲人であった青年はその心がきよいため、神であるキリストを見たのです。一方パリサイ人は聖書の専門家ではありましたが、しかしそれは外側だけであり、その心はきよくなかったと理解できます。彼らの心はきよくなかったので、結局は神を見ることができなかつた、神が人となられたキリストを見るができなかつた、そう理解できるのです。

＜裁きとは？＞

さて、主は冒頭のみことばで、「わたしはさばきのためにこの世に来ました。」と語られました。主の言われる「さばき」ということを考えてみましょう。

この盲人の聖書箇所を見たかぎり、たしかに主の初降臨は結果として、人々のさばきを行うことに用いられました。人々の真の歩みや心が主の来臨によって、明らかにされてしまったことが分かります。

もっとはっきり言うなら主の初降臨は、形だけ敬虔であり、しかしその実を否定するような人々が間違えるような形、言い方を変えると引っ掛け問題、難問のような形で来られたのです。

そしてパリサイ人、祭司、律法学者など、外側は白く塗られた墓のようにきれいでも、その内側はあらゆる汚れたもので満ちている人々、心のきよくない人々は皆、この難問に引っ掛かってしまったのです。

キリストの来臨に関して、彼らは聖書の知識

「さばきのためこの世に来られた主」 エレミヤ

を持っていました。彼らは来るべきメシヤがどの地で生まれるのか聖書の正しい知識を持っていました。ユダの地、ベツレヘム、それが正解だったのです。そしてその知識が仇になり、ナザレ出身であるイエスを受け入れませんでした。彼らは自分たちが全く聖書的に正しい答えを持っていると思っていたのです。しかしナザレのイエスとは、さばきのため来られたイエスの引っ掛け問題でした。彼はじつは、人口調査のために故郷へ戻ったその旅先の地、ベツレヘムで生まれていたのです。

神は人々を引っ掛け、偽善者を一網打尽にするような引っ掛け問題、ナザレのイエスという難問を彼らに用意したのです。そしてこのナザレ出身のイエスという事柄は、多くの偽善者を選び分け、さばくために用いられました。

しかし正しい人々はその引っ掛け問題にもかかわらず、神を見、神の子イエスを見ることが出来ました。その一例はあのナタナエルです。以下のように彼はナザレのイエスこそ真の救い主であることを知りました。

〔聖書箇所〕ヨハネの福音書1:45-49

1:45 彼はナタナエルを見つけて言った。「私たちは、モーセが律法の中に書き、預言者たちも書いている方に会いました。ナザレの人で、ヨセフの子イエスです。」

1:46 ナタナエルは彼に言った。「ナザレから何の良いものが出るだろう。」ピリポは言った。「来て、そして、見なさい。」

1:47 イエスはナタナエルが自分のほうに来るのを見て、彼について言われた。「これこそ、ほんとうのイスラエル人だ。彼のうちには偽りがない。」

1:48 ナタナエルはイエスに言った。「どうして私をご存じなのですか。」イエスは言われた。「わたしは、ピリポがあなたを呼ぶ前に、あなたがいちじくの木の下にいるのを見たのです。」

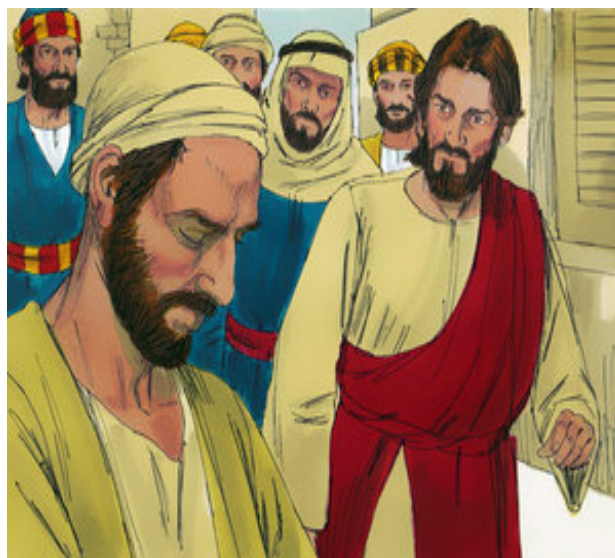
1:49 ナタナエルは答えた。「先生。あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です。」

このように当初はパリサイ人と同じように、

ナザレ出身のイエスなど、相手にしていなかったナタナエルでした。しかし実際にイエスと話す中で、この方こそ神の子であることを見たのです。彼も心がきよく、それゆえ神から来られた方を見ることができたのでしょ

＜イエスの初降臨は人々のさばきのため＞

このように初降臨のイエスはさばきとして来られ、いわばひっかけ問題のような形で来られ、多くの人の真の心を見分けるような形で来られました。ですから私たちは、これらの事柄を通してキリストの初降臨の目的を理解しなければなりません。主の初降臨の目的は何でしょう？それはこれらの事柄から理解できるように、形だけの歩みをし、そのじつ、白く塗られた墓のような歩み、偽善者の歩みをしているクリスチャンへのさばき、という面が明らかにあるのです。主の初降臨に関して福音書から理解できること、それは神がイエスを誰でも理解できる形、誰でもこの方こそ聖書に預言されたメシヤであると、すっきり問題なく理解できるような形で送りしなかったことです。そうではなく、神はイエスをわざわざ多くの専門家が間違えるような形で送られました。そう、わざわざです。



生まれつきの盲人はイエスを見る

「さばきのためこの世に来られた主」 エレミヤ

そしてそのことの裏には、明らかな神の意志、意図が感じられるのです。それはキリストの初降臨は全ての人にとって祝福の時、というより、その降臨が偽善者や形だけ敬虔な人々に対する裁きの時とするという目的があるからなのです。

日本の警察のおまわりさんはどういう格好をしているかと言うと、紺の制服を着て頭には警察の帽子をかぶり、腰には警棒やピストルを下げ、警察の白い自転車に乗ってパトロールをしています。それで誰でも町を歩いている人は、あの人はおまわりさんだと理解できるのです。

さてそれでは、いつも警察の人はそんな分かりやすい格好で歩いているか？と言うとそうでもありません。私服でその辺のおじさんと変わらないような風体で電車に乗っていたりします。そして電車のスリが人のポケットの財布を盗ろうとするとすかさず、逮捕したりするのです。この場合、警察の刑事さんは相手を捕まえるためにそれと分からない格好をしているのです。犯人を捕まえるためにわざと分からない格好をしているのです。

このような例で、キリストの来臨に関して語るのが分かりやすいかどうか分かりませんが、主の初降臨もまさしくこの私服の分かりにくい刑事と同じです。初降臨の目的が偽善的な歩みをしている神の民へのさばきなので、誰でもすぐそれと分かるような形では来られなかったのです。

<主の再臨もさばきのために来られる>

さて、私たちは主の初降臨の時に生きているのではなく、再臨に近い時に生きています。それで私たちの疑問は主の再臨に関してはどうなのか？という質問です。再臨の主はどのような形で来られるのでしょうか？

私が思うには、再臨に関しても主は「さばき

のために世に来られる」と思ったほうが妥当のように思えます。そして再臨の時も主は全ての人知っている周知の方法で来られる、誰でも分かっている方法で来臨する、というより、いわば引っかけ問題のような形で来るように思われるのですがどうでしょうか？私にはそう思っています。

<終末の封印は裁きのために用いられる>

聖書は基本的にわかりやすい本です。しかしいざ終末のこと、再臨のことに関して言うなら、それは難解であり、封印で封じられています。いったいなぜそうなのか考えたことがあるでしょうか？神のなされる全てのことには理由があり、終末に関する全ての記事が皆難解であり、7つもの堅い封印で封じられているのには理由があります。

それは以下のダニエル書に書かれているように正しい者、悪を行う者を区分し、さばくためなのです。

[聖書箇所]ダニエル書12:9,10

12:9 彼は言った。「ダニエルよ。行け。このことばは、終わりの時まで、秘められ、封じられているからだ。
12:10 多くの者は、身を清め、白くし、こうして練られる。悪者どもは悪を行ない、ひとりも悟る者がいない。しかし、思慮深い人々は悟る。

ここには終末のみことばが封印で封じられていること、そしてその理由として、「**悪者どもは悪を行ない、ひとりも悟る者がいない。**」ことが書かれています。

すなわちここで書かれていることは、こういうことです。神が終末のみことばを封印していることには意味があり、それは、「**悪者どもが一人も悟るものがない**」ためであることが書かれているのです。たとえば言えば、こういうことでしょうか？

「さばきのためこの世に来られた主」 エレミヤ

たとえばドアに7つもの鍵や錠をかけている家があるとします。一つ二つの鍵なら、よくあることですが、7つとは異常な数です。この鍵の数により、その家の持ち主の強い意志を感じられないでしょうか？「知らない人、まして強盗や悪人、不良などには決して自分の家に入ってもらいたくない。そのために沢山の鍵で家を守る」という強い意志が感じられるのです。

同じ意味合いで終末のみことばに関して封印をし、黙示録に至っては7つもの封印で封じた神の強い意志を我々は理解しなければなりません。その意志は明確であり、「悪人には決して封印を開かない」という強い意志です。

かつての日、主の初降臨の日は、偽善的な神の民に対する神のさばきの時であり、その日、正しく歩まない人々は皆、ナザレのイエスという難問を解くことができず、裁きに入ってしまった。

同じことを神は主の再臨の日において、再度行われるように私には思えます。そしてそれは、終末の封印された預言を通して行われるように私には思えます。すなわち正しい者、御霊の知恵を与えられた人々は終末の封印を解き、終末の日に歩むべき方向を理解する、けれども一方、形は敬虔でも、しかし神の前に悪人と見なされた人々には封印は開かれず、結果、滅びを掴む、このように思えるのです。

<封印は偽善的な歩みをする人々には封じられている>

このような視点で今のキリスト教会、そして特に終末の封印に関して見るときに、このことは成就しているように思えます。今はどういう時代なのでしょう？多くの人が身をきよめ、思慮深い人々が7つの封印を全て開き終えた時代なのでしょう？

私にはとてもそうは思えません。むしろ多く

の神の民にとっては7つの封印の一つだに開かれていないように思えるのですがどうでしょう？

今の教会の常識となっている終末の教理、たとえば艱難前携挙説、2段階携挙説などは、失礼ながら盲人のたわごとのように見えます。さらにエルサレムに第3神殿が建つたの、EUが獣の国だのの教理も同じです。

なぜ真理が見えないのでしょうか？封印が開けないのでしょうか？その答えは冒頭のテキストにあると思えます。

[聖書箇所]ヨハネの福音書9:39

9:39 **そこで、イエスは言われた。「わたしはさばきのためにこの世に来ました。それは、目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためです。」**

かつての日、自分こそ目の見える者であると自負していた宗教の専門家パリサイ人は、神の前には盲目に過ぎませんでした。そしてそうであるがゆえに、目の前にいる神から来られたイエスを見ることはできませんでした。むしろ罪人扱いしたのです。ナザレのイエスは彼らの裁きのために来られたのです。同じ意味合いで、今の聖書や教会の専門家であるはずの人たちが終末教理の真理が見えず、ガゼネタを掴んでしまうその理由は何でしょうか？それははっきり言いますが、彼らが神の前には盲目であり、終末のみことばが彼らの裁きのために用いられているからなのです。神を恐れましょう。

—以上—



7つの封印を開く

「シヌアルの外套」を通して教えていただいたこと E3

つい最近10月の土曜日の集会で、ヨシュア記から学びをしたことについて話をしたいと思います。特に終末を生きるクリスチャンにとって、大事なことだと思いましたが、よろしければ聞いていただけると幸いです。

〔参照〕ヨシュア記7:21

7:21 私は、分捕り物の中に、**シヌアルの美しい外套一枚と、銀二百シケルと、目方五十シケルの金の延べ棒一本があるのを見て、欲しくなり、それらを取りました。それらは今、私の天幕の中の地に隠してあり、銀はその下にあります。**」

下線のことばに着目していただきたいのですが、「**シヌアルの美しい外套**」とは、何を言われているかお分かりになりますか？私のことを言わせていただくなら、エレミヤ牧師からメッセージを聞くまでは、何のことを言っているのかさっぱり分かりませんでした。ちなみにこの箇所はどういう箇所なのか？と言うと、その前から読むと分かるのですが、アカンの犯した罪について言われているところです。21節は、アカンが言ったことですが、この「**シヌアルの美しい外套**」をアカンが取ったために、その後イスラエルは敵に打ち負かされてしまったのです。下記、みことばがそのことを語っています。

〔参照〕ヨシュア記7:11,12

7:11 イスラエルは罪を犯した。現に、彼らは、わたしが彼らに命じたわたしの契約を破り、**聖絶のものの中から取り、盗み、偽って、それを自分たちのものの中に入れさせた。**

7:12 **だから、イスラエル人は敵の前に立つことができず、敵に背を見せたのだ。彼らが聖絶のものとなったからである。あなたがたのうちから、その聖絶のものを一掃してしまわないなら、わたしはもはやあなたがたとともにはいない。**

上記みことばは主が言われたことばです。

「**聖絶のもの**(KJV訳:呪われたもの)」とは、21節の「**シヌアルの美しい外套**」のことです。そして今回のメインである「**シヌアルの美しい外套**」とは、日本語だと今ひとつ意味が分からないのですが、KJV訳では、“goodly Babylonish garment”とあります。そのまま訳すと「バビロンの美しい衣服の一点」となります。また、「バビロン」と「衣服」には、たとえの意味合いがあります。「バビロン」はレムナントキリスト教会では、「アメリカ」のことだと理解しています。「衣服」は、「教会の制度」とか「教え」という意味合いがあります。つまり「教理」のことを言われていると思います。ですから「**シヌアルの美しい外套**」とは、「アメリカ由来のすばらしい教理」のことを言われているのです。

一例を挙げるなら、クリスチャンは艱難を通らずにその前に天に挙げられるという「艱難前携挙説」です。この教理はアメリカから来たものですが、クリスチャンにとって、とても都合の良いものであります。

かつて私もこのことを信じていました。しかし神さまから言わせると、それは「**聖絶のもの**(KJV訳:呪われたもの)」なのです。なぜで

「シヌアルの外套」を通して教えていただいたこと E3

しょうか？そのようなことは、聖書のどこにも書かれていないからです。11節に「盗み」「偽って」ということばが出てきますが、「艱難前携拳説」は、イエスさまが言われた「**世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような、ひどい苦難があるからです**」のことばを曲解して別のものにしたもの、すなわちみことばを盗み、偽っている教え、というものなのです。

そして、「**聖絶のもの(KJV訳:呪われたもの)**」が「**天幕(教会)**」の中にあるときに、12節で「**イスラエル人は敵の前に立つことができず、敵に背を見せたのだ。**」と言われているように、敵の前に立つことができなくなってしまうのです。続いて、「**彼らが聖絶のものとなったからである。あなたがたのうちから、その聖絶のものを一掃してしまわないなら、わたしはもはやあなたがたとともにはいない**」とありますように、それらを持ち合わせていることによって、私たちクリスチャンが神さまの前に、「**聖絶のもの(KJV訳:呪われたもの)**」となってしまうのです。しかも、「**わたしはもはやあなたがたとともにいない**」と言われているように、神さまが共にいてくださらないのです。そして、「**その聖絶のものを一掃してしまわないなら**」とありますように、「**聖絶のもの(KJV訳:呪われたもの)**」を除外しないかぎり、サタンに勝つことができなくなる、ということを言われているのです。

いかがでしょうか？バビロン、すなわちアメリカ由来の教理について、神さまが怒りを

発しておられることが理解できますよね？

「**艱難前携拳説**」はほんの一例であって、他にもアメリカ由来の嘘、偽りの教えはまだまだありますが、気付いたところからでも、ひとつずつ除外していくことにポイントがあるのでは？と思います。聖書にハッキリと「**呪われたものとなる**」とか「**敵の前に立てない**」ということが書かれていますので、万が一にも、「**聖絶のもの(KJV訳:呪われたもの)**」がありましたら、ただちに取り除いていきたいと思えます。「**一掃してしまわないなら～**」ということは、裏返すと「**聖絶のもの(KJV訳:呪われたもの)**」を一掃していくのなら、神さまは共にいてくださいますし、敵に対して勝利を得ていきますので、もし、「**聖絶のもの(KJV訳:呪われたもの)**」に関してお心当たりがありましたら、ぜひ実践していきたいと思えます。

ちなみに聖書の教えのひとつに、勝利者が御国を受け継ぐことや、永遠の命を得ることについて言われていますが、「連戦連敗」つまり敵に「負け続き」というときに、あわや永遠の命を落としたり、御国に入り損ねてしまったりする可能性がありますので、くれぐれも気を付けていきたいと思えます。いつも大事なポイントについて語ってくださる神さまに、栄光と誉れがありますように。

お知らせコーナー

●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



定価:¥1,500+消費税

注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。

警告の角笛出版:

tel:042-364-2327

fax:020-4623-5255

mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00

場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館

(tel:042-360-3311)

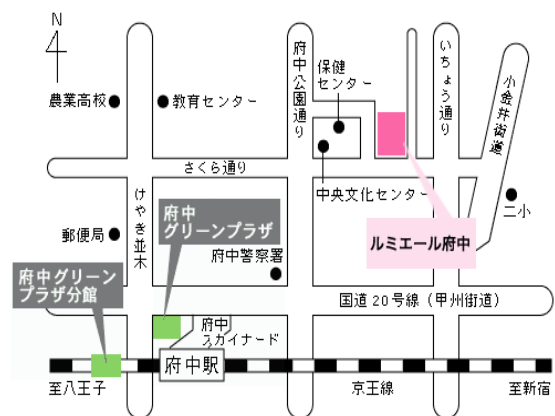
1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、

「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。

礼拝場所のURL:

http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html



●第38回黙示録セミナー by エレミヤ

黙示録、ダニエル書など終末に関するトピックを解説するセミナーです。

北海道から、広島から熱心なクリスチャンが参加しています。

場所:府中グリーンプラザ本館第5会議室(7F)上記地図を参照。

日時:2015年1月11日(日) 18:00-20:30

費用:入場無料、但しテキスト代 1,000 円(当日徴収)

定員:20名(先着申込順。満員次第締め切り)

主催:レムナントキリスト教会(tel:042-364-2327)

申し込み:メールもしくはfaxで、「名前、住所」を記載の上、「セミナー参加希望」とお申し込みください。

fax:020-4623-5255,mail:truth216@nifty.com